

1 自己評価

I 評価結果 ○は達成 ●は未達成

項 目	成果と課題（達成状況）	評定
落ち着いた学習環境づくりの推進と学習意欲の向上、生徒の進路保障	○学習指導が困難な場面もある中で、生徒一人ひとりに対する学習相談と進路支援も充実してきた。学びを子どもに委ね、自ら考え決定する場を増やすために、伴走者となる PBL 等の研修を行った。 ○県学力状況調査では、引き続き平均を超えることができた。 ○スクールフレンドによる学習サポートを行うと共に、生徒一人ひとりに適切な進路支援を行った。 ●学校全体として落ち着いた学習環境が醸成できなかった。（一部のクラスでは顕著だった。） ●家庭学習（授業以外の学習）平日 1 時間以上が 58% と低迷、伸び悩んでいる。 ●引き続き、家庭でのスマホやゲームの時間が多く、家庭学習時間が少ないなど、タイムマネジメントや自己管理能力が課題である。 ●生徒に全国・県学力調査で標準スコア 50 を超える基礎学力をつける。 ●全国学力状況調査は、特に数学が大きく数値を下げた。	B
規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立	○生徒の自主的な発案・協議を経た「セレクト登校」（制服か体操服かを自らセレクトして登下校する）を通年実施するなど、生徒発案による変化の実現を仕掛けた。校則見直しの協議や新たな発案を促す取組を続けている。 ○生徒指導の三本柱「時を守り」「場をきれいにし」「礼をつくす」を意識して実践できるように、生徒会活動として、時間・そうじ・あいさつ等のキャンペーンが展開できた。 ○いじめ対策基本方針に沿ったいじめを許さない学校づくりに取り組み、未然防止に努め、早期把握、早期対応することができた。 ○数年ぶりに全校が一斉に体育館に集まる機会をもてた。 ●規範意識の低下・未定着が目立つ場面が多くあった。家庭の教育力の低下を感じる場面もある。 ●家庭でのスマホ等のルールづくりは 49% と低迷している。 ●SNS の不適切な使用に金するトラブルは、今年度も頻発した。学校での情報モラル教育や啓発だけでは限界を感じる。	B
好ましい人間関係の構築と思いやりの心の育成、ともに高め合い・学び合う集団づくりの推進	○授業では、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた学級活動や教科時のペア学習やグループ学習を行い学び合う集団づくりを行った。 ○さわやか教室（自立応援室）を終日開設することができた。生徒が自分のペースで登校し、居場所があり安心して過ごすことができた。 ○SC や SSW、関係機関と連携し、適切に長期欠席や不登校傾向、悩みを抱えた生徒（保護者）を支援した。 ○さわやか教室のレイアウト変更なども随時実施し、個別対応に繋げるための工夫をした。保護者の会を開催し、具体的な要望を聞いた。 ●長期欠席や不登校傾向、悩みを抱えた生徒（保護者）へのより効果的な支援（例 確実な進路等の情報提供）、要支援家庭の関係機関との緊密な連携と具体的な情報提供が課題である。	B
保・幼・小・中・高・高専・大学等との連携、家庭・地域等との連携による教育活動の充実	○PTA と連携しての自由参観実施や学級懇談会開催等、保護者との関係づくりの進展・改善や、保護者としての当事者意識醸成に努めた。 ○中学校へのスムーズな接続のため、出前授業や生徒指導、特別支援教育や不登校支援等の各担当が連携して実施し、情報交換を進めた。 ○中学生こみゅや職場体験学習を通して、地域の大人や地元企業等とも連携することができた。 ○各種便りやメール、ホームページ等で情報発信した。 ○定例（毎月等）で、健全育成団体や民生・児童委員の方に、あいさつ運動等で安全安心の学校づくりに協力していただいた。 ●コミュニティ・スクールの認知度等に関する保護者アンケート結果は 30 % 前後で推移している。	B

（A：目標を上回っている B：ほぼ目標どおり C：目標を下回っている）

Ⅱ 分析・改善方策

- ・規範意識の向上を中心に据えて、自己指導能力の育成や道德教育の充実に取り組む。
- ・授業改善を進めて、魅力ある授業・学校づくりを模索し、家庭学習と授業との接続による学力向上を図る。
- ・生徒の自治活動をさらに充実させ、自治的実践力の向上、集団づくりと学校づくりを行う。

2 学校関係者評価委員会

真木 茂（学識経験者）	大山 正志（町内会長）	北山 浩二（学識経験者）
大土井亮輔（地域学校協働活動推進員）	林 誠子（主任児童委員）	
赤木こずえ（保護司）	矢野 優（元 PTA 会長）	白石 惇与（PTA 会長）

3 学校関係者評価

- （アンケートでは）いろんな子が入学してくる課題の多い学校は、外部評価が下がる傾向がある。それは仕方のない面もある。授業規律に対しての厳しい意見が多いと感じた。保護者が教員に攻撃してくることがあるが、それは教育上よくない。P 保護者・T 教員に地域も加わって、みんなで目を向けていかないと改善しない。後追い指導になっていることを全校集会、学年集会等を活用して改善できないか。授業で指導力の差が出てくる。だからこそ、チームでやる必要がある。
- SNS の不適切な使用については、情報モラル教育や啓発だけでは限界があると感じられているが、繰り返し、繰り返し何度も情報モラル教育が必要であると思う。スマホの問題や家庭学習などは保護者が主体的に対応すべきかと思います。
- 保護者の厳しい意見がある。保護者会の後の返し方にも配慮、工夫してほしい。教職員のアンケートで「右肩上がり」を意識できていないとの回答が3人もいた。（回答の状況や職種はわからないが、いかがなものかと思う。）何かあったときには臨時で集まって話し合えたらいい。事後報告ではなく対策から考えたい。
- 問題のある生徒を排除しようとしている保護者の存在が悲しい。ある教科での担当者の発言に、大いに気になる場所があった。卒業後には学ばない内容があったり、中学校が最後の学校教育の場になる子もいたりするので、皆としての学びの場の確保が必要だ。
- 「他人に迷惑をかけない」は、幼少期からの家庭教育。中学生こみゅはよかった。何か問題が起こったときには、協議会委員も保護者と一緒になってやっていきたい。
- 保護者が、生徒を排除しようとするのが残念で仕方がない。担任をはじめ、学校の思いを踏みにじることだ。どの担任もクラスをまとめようとしている。しっかり説明、発信できる教員集団であってほしい。
- PTA 活動に参加する保護者が少ない。学級懇談にも集まらない。勉強したくてもできない雰囲気がある。一人一人と話すといい子なのに、集団になると調子にのって悪くなる。
- 部活のランニングをしている子とは、挨拶などの触れあいがある。通学時のときの態度が悪い（自転車、歩きともに）。マスクをポイ捨てして通る子もいる。
- 秋頃には悪い噂を沢山聞いた。素早い対応を学校はしていた。（アンケートは）オンラインになると辛辣な文章が書ける。アンケートを取った時期によって回答が随分違うのではないかな。以前は悪い行為になびく生徒は少ないと言われていたが、今はそうではない。何か問題があったときには地域（民生委員や育成会など）も学校に関わりたい。地元の学校を大切にしたい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 「一人前の大人になるための、右肩上がりの学びの場に」したい。
- 規範意識の向上のために生徒自ら現状を認識し、改善できるよう働きかけたい。その場そのときの「役割と約束事」を意識させることで、適切な「ふるまい方」ができる生徒、集団を育みたい。生徒会とも連携し、安心して学べる環境を構築する。「時を守り・場をきれいにし・礼をつくす」を徹底したい。
- 問題行動や迷惑行為への対応も再確認し、家庭や地域の理解・協力を得ながら適切に進める。
- 生徒主体の学校づくりを行うためにも今後も生徒会との座談会等も活用しながら、継続して校則の見直し等に取り組む。いじめについては、基本方針に沿って取り組み、関係機関等とも連携し、未然防止や適切な対応を行う。
- 自己肯定感や有用感を高め、自己指導能力を身につけさせたい。自分の適性に合った将来像がもてるよう、学校行事や体験活動等を工夫して行いたい。身近な大人との良い出会い、コミュニケーションの場を設定したい。
- 教員が生徒の協働的伴走者としての役割を担う授業づくり、生徒の個別最適な学び、協働的な学び、主体的な学びにつながる授業改善を目指して、現状を正確に把握し、計画的に研修を進めたい。
- 家庭学習や家庭教育の充実を期して、生涯学習の観点も踏まえ、より家庭との連携を進めていきたい。
- 自分の進路を拓き、社会をたくましく生き抜く力を育むために、小学校や上級学校、地域と連携した教育活動を工夫したい。新入生の学び直しも大変重要であり、わからないところをわかるようになるための支援をしていきたい。
- コミュニティ・スクールを機能化させ、保護者・地域に気軽に学校に足を運んでいただき学校の実情を共有しながら、保護者、地域と一体となった学校づくりを進めていきたい。学校運営協議会や地域学校協働活動を効果的に生かしたい。
- SNS等の適切な使用のために、引き続き情報モラル教育に力を入れ、家庭への啓発や、家庭でのルール作りを推進したい。